

2018年10月25日

立教大学国際学術研究交流制度  
2018年度「招へい研究員」報告書

1. 招へい概要

|              |      |   |
|--------------|------|---|
| 受入<br>教員     | 所属・職 | 異文化コミュニケーション学部・教授   |
|              | 氏名   | 石井 正子   |
| 受入学部・研究科・研究所 |      | 異文化コミュニケーション学部  |
| 招へい<br>研究員   | 所属・職 | Member of Board of Trustees, Alternate Forum for Research in<br>Mindanao<br>所属機関所在国：フィリピン |
|              | 氏名   | Rufa Guiam  |
| 招へい期間        |      | 2018年10月1日～2018年10月22日（22日間）  |
| 研究経費         |      | 540,430円  |

2. 滞在中の活動

来日日および離日日を含め、滞在中の活動を記入してください。全日程（毎日）記載する必要はありません。講演会やセミナーなどを開催した場合はタイトル、会場、参加者数等を記載してください。

活動内容記入例）〇〇について研究討議、共同研究、講演、講義、大学院生への研究指導等

\*「本学との学術協定（学部間・研究所等間を含む）の締結または既存協定の維持・強化に資する活動」を行った場合は、該当する活動内容に※を付してください。

| 年月日         | 活動内容   |
|-------------|--|
| 2018年10月1日  | 来日   |
| 2018年10月5日  | 公開講演会「Armed Conflict in the Southern Philippines: Peace Process with the MILF under the Duterte Administration」  |
| 2018年10月11日 | 専門演習1 & 3における講義「The Armed Conflict in Southern Philippines: historical background, challenges and opportunities toward lasting peace」<br>特殊講義Cにおいても講義を予定していたが、受講生不在で不開講となったため、実施しなかった。 |
| 2018年10月19日 | 第76回ジェンダーセッション「フィリピン南部における紛争と女性:「移行期正義と和解」の取り組みは過去にどう応えるのか」  |
| 2018年10月22日 | 招へい期間終了（滞在を延長し、10月27日離日）   |

### 3. 研究・交流状況および成果

上記に記載した活動について、具体的な研究・交流の内容および成果を、本学の学術研究、教育活動、国際交流の進展へ与える効果を含めて、記載してください。講演会やセミナーなどの参加者層（学生、大学院生、一般、教職員等）、会場の様子なども記載してください。

ルファ・ギアム氏は、9月30日に来日予定であったが、台風の影響により航空便に遅れが生じたため、10月1日に来日し、同月22日まで立教大学の招へい研究員として、東京に滞在した。滞在中の活動と成果は、以下の通りである。

#### 1. 公開講演会「Armed Conflict in the Southern Philippines: Peace Process with the MILF under the Duterte Administration」(2018年10月5日17:00~18:30, 1104教室)

本セミナーでは、モロ（ムスリム）として長期にわたって現地で武力紛争に研究と実務の両面からかかわってきたルファ・ギアム氏が、最新の和平プロセスの状況についての報告を行った。国連大学や JICA などの国際協力の専門家や、立命館大学、弓削商船高校などの遠方からの研究者があわせて12名参加し、英語で専門的な議論を行った。本学からの参加者は、人権ハラスメントセンターから1名、学部生1名と限定的であったが、メディアでは報じられない現地での動向を知る貴重な機会となった。

#### 2. 専門演習1 & 3における講義「The Armed Conflict in Southern Philippines: Historical background, challenges and opportunities toward lasting peace」(2018年10月11日、7204教室)

専門演習1と3の出席者16名に対し、英語で、フィリピン南部の紛争と、ご自身のキャリアについて講義をしていただいた。フィリピンをテーマに卒論を執筆する計画を立てている学生や、ルワンダや南スーダンなどの紛争地域についての論文を執筆する学生がいるために企画した。講義の内容は理解したようだが、質問をすることは一部の学生を除いては消極的であったのは残念であった。一方で、紛争影響地域に生きる当事者の声を聞く貴重な機会を提供できたと信じる。

#### 3. 第76回ジェンダーセッション「フィリピン南部における紛争と女性:「移行期正義と和解」の取り組みは過去にどう応えるのか」(2018年10月19日18:30~20:30 7101教室)

フィリピン南部の武力紛争が一般市民、とくに女性にどのような暴力をふるったのかを理解する手助けとして、フィリピン人権委員会が作成した虐殺事件に関する動画を導入し、そのうえで、「移行期正義と和解のための委員会」の主任コーディネーターをつとめたルファ・ギアム氏に、フィリピンにおける「移行期正義」の取り組みが、その癒えない過去の傷にどのように応えようとしているのかについて、お話いただいた。参加者は学内外から約30名ほどであった。公演後、参加者からは、「移行期正義」の実践をより詳細に問う質問や、和平プロセスに対する海外の支援に関する質問などが寄せられた。とりわけ、日本政府のフィリピン人慰安婦に対する取り組みとの比較に関する質問があり、フィリピン南部で展開された性暴力を他人事としない視点が提供された。20名からアンケート用紙を回収したが、概ね満足、まあまあ満足という回答があった。セッションの内容詳細は、ジェンダー・フォーラムのニューズレターと年報に記載される予定である。

以上のように、滞在中に専門家と学術的かつ実践的なディスカッションを行うことに加え、学生、一般向けにフィリピン南部の紛争についてご講演をいただくことを通じ、あまり報じられないことのない同地域の紛争を広く周知する活動を行った。また、招へい研究員受け入れ教員（異文化コミュニケーション学部・石井正子）とは、進行中の和平プロセスについて学術的な意見交換を行った。

ルファ・ギアム氏は、フィリピンの主要紙 *Philippine Daily Inquirer* のコラムニストをつとめており、立教大学の招へい制度のことについても好意的に触れていただいた。

“Irrigating mental deserts,” *Philippine Daily Inquirer*, October 8, 2018.

<https://opinion.inquirer.net/116607/irrigating-mental-deserts>

（特記事項）本学との学術協定（学部間・研究所等間を含む）の締結または既存協定の維持・強化に資する活動を行った場合は、下記にその内容を記載してください。